

小

学

生

の

部

最優秀作

内閣総理大臣賞

茨城県下妻市立上妻小学校

五年

龍道りゅうどう

彩音あやね

お互いに守ろう交通安全

最近、登校中の通学班に自動車が突っ込み小学生が巻き込まれる事故が多発しています。

交通事故のニュースを見るたびに、お母さんは、「いくら交通ルールを守っていても、事故に巻き込まれる事があるのだから、だろうではなく、かも知れないと考えて、目配り気配りを忘れずに行動しない。」

と言います。私は頭の中で、「またおおげさな事を言ってる。そんな事を言われなくても分かっているし、それに事故なんて滅多におきないよ!」と思いつながら返

事をしていました。

ある朝、いつものように通学路の十字路の信号を認して横断していると、突然、車が私達の班に突っ込んで来ました。次の瞬間、「ギギギー」と、けたたましいタイヤのスレる音がなりました。私は、「あつぶつかる! 逃げなきゃ!」と頭に浮かびましたが、怖くて足がすくんでしまい、その場で目をつぶる事しか出来ませんでした。そして、「あつ私達死ぬのかも?」と思った瞬間、あの時のニュースが頭に浮かびました。「私にかぎって、事故に巻き込まれるなんてないだろう」と思う、これこそが「過信なのだ!」と気付きました。そして、今まで他人事のように思っていた自分が情けなく悲しくなりました。いつ自分の身に起こってもおかしくない事なのだと分かりました。

そして数カ月後、通学班の子達と下校していると、低学年の子が水筒を落としてしまい、車道側に転がった水筒を追って飛び出そうとしました。私は、

「危ない! 飛び出したらダメ!」

と低学年の子の手を引いた次の瞬間、「バァン! グシャ!」と凄い破裂音がして、一瞬で水筒がぺたんこ

に潰れてしまいました。私達は、驚いたのと同時に車の恐ろしさを目の当たりにして、その場に立ち尽くしていました。

運転手さんは、そんな私達を無視して、何事もなかったかのように行ってしまいました。もし低学年の子が飛び出していたらと思うと背筋がゾッとします。毎朝、お母さんが、「だろう」ではなくて、「かも知れない」と考えて、気をひきしめて行つてらっしゃいと言う意味が身に染みて分かりました。

私は、お互い相手を思いやる心と時間に余裕を持ち、皆が交通安全を心掛けるようにすれば、悲しい事故が少なくなると思います。

そして、運転手さんをお願いします。時間がなく急いでいたのかも知れませんが、私達歩行者を、ご自分の家族と考えてみて下さい。あなたの家族に同じ事をされたらどう思いますか？ 私達も、「目配り」「気配り」をして気を付けますので、運転手さんも、「安全運転」を、よろしくお願いします。



優秀作 国務大臣・国家公安委員会委員長賞

群馬県渋川市立橋小学校

一年 今井 伶皇

ぼくのこうつうあんぜん

ぼくは、四がつから小がくせいになりました。いえからがっこうまでぼくのふたりのおにいちゃんと、きんじょのおにいちゃんふたりのご人でどうこうしています。

おにいちゃんたちのように、にゆうがくするまえのはるやすみにがっこうまであるいていき、あるいてかえるれんしゆうをしました。ぼくのおにいちゃんかはんちようさんなのでおにいちゃんもぼくとあるいてくれました。おかあさんは、ぼくたちのあるくようすをうしろからみていました。いえにかえってからだいは

んせいかいのはじまりでした。一ばんちゆういされたのは上のおにいちゃんでした。

「れおをつれていけないといけないんだからもうすこしゆつくりあるいて。さいしよのうちにはちよいちよいうしろをきにしてあげてね。」といわれていました。

そのあとは、どこにぼうはんきようりよくのいえがあつたかや、くるまがとびだしてきそうなぼしよのかくにんをしました。ぼくのあるくつうがくろはんぜんぜんだとおもっていたのですが、とつてもきけんなぼしよもあつてすこしこわくなりました。おかあさんがしんぱいしているのは「しぜん」だそうです。はるになつてあたたかくなるとくさや木がどんどん大きくなつてつうがくろがあるけなくなるからです。それにぼくはちいさいから、ぎつそうにかくれてしまい、くるまからはみえないみたいです。だからおかあさんはぼくに、

「きいろいぼうしはかならずかぶつてあるくこと。いえにつくまではかぶりつづけること。」といいます。

きいろはめだつからよいのだそうです。そのほかにもたくさんはなしをしました。とうげこうだけがこう

つうあんぜんではなく、一ぼそとへでたらきをひきしめてこうどうする。ひとりひとりがきをつけなければいけないとおもいました。

兵庫県明石市立山手小学校

二年

高橋 たかはし

悠 ゆう つき

じてん車は車のなかま

ぼくは、小学生になつてから、じてん車にのつて出かけるようになりました。でも、まだ、おとうさんやおかあさんといつしよの時にしか、のらせてもらえませんでした。

「もう、じょうずにのれるんやから、一人で出かけてもええやん！」と言いました。そしたらおかあさんに、

「じてん車のルールを、しつかり頭と体でおぼえてからじゃないとムリやなあ。」と、言われました。だ

から、かぞくでじてん車のルールをしらべたり、考えたりしました。

ヘルメットをして、しんこうでとまって右左をかくにんすることは知ってるし、スピードを出しすぎたらダメなことも知ってるし、まもってる。でも、それだけじゃなかった！

ぼくは、だいたいいつもははどうをはしっているけど、本とうはじてん車は、車どうをはしらないといけない。それも、車とぶつからないように、左がわをとおること。十三さいより小さい子どもか、七十さいいじょうのこうれいしや、体のふじゆうな人はどうをはしつてもいいそうです。でも、どうをはしる時は、「歩いてる人がゆう先なんやで！」と、おとうさんが言いました。ぼくは、

「ゆう先つてなに？」と聞いたたら、

「はどうつて、かん字で歩くみちつて書いてはどうつて読むねん。だから、歩く人が一ばんつてことや！

じてん車は、通らせてもらつてるんやから、歩く人のじゃまになつたらダメなんやで！」と、おかあさんが言いました。どうをはしる時は、ゆつくりはしつて、

歩いている人をおいこしたらいけないし、早く通りた
いからつて、ベルをならしたりしてはいけないそうで
す。

こうやって、かぞくでいっしょにしらべて話し合っ
て、ぼくはまだ、じてん車のルールのことをちゃんと
知らなかつたんだなと思いました。

そして、ぼくは歩いてる時に、じてん車にのつてる
人、みんなちゃんとルールまもってるんかな？ と気
になつて見るようになりしました。そしたら、スマホを
見ながらのつてる人や、すごいスピードで歩いてる人
にベルをならして、みちをあげさせて通つてる人がい
ました。ニュースでも、きけんうんてんをしていて
じてん車がおこしているのを見たので、こわい
なあと思いました。でも、ちゃんとゆつくりはしつた
り、じてん車から下りて、おして通つてゐる人もいま
した。ぼくは、もつとみんなが、じてん車のルールや
マナーについて、しらべたり、考えたらいいのになと
思いました。

ぼくは、かぞくで話し合つて、

「人も、じぶんも、ものもぎずつけないで、あんぜ

んにたのしくじてん車にのろう！」ときめました。

おとうさんとおかあさんが、

「じてん車は、車のなかまなんやで！」と、言つて
いたのが、こころにのこりました。

じてん車にのると、歩くよりも早く、行きたいとこ
ろに行けてべんりだけど、そのぶん、きけんだから気
をつけて、ルールとマナーをまもらないといけないん
だなと思いました。

ぼくには三さい年下のいもうとがいます。いもうと
がじてん車で出かけるようになったら、ぼくがルール
とマナーを教えてあげようと思いました。

お父さんの自転車教習所

私は自転車が好きです。今まで乗ってきた自転車が小さくなってきたので去年の夏、私のたん生日に両親が買ってくれました。茶色の花柄もように、茶色のイスはともおしゃれで、私のお気に入りの大切な自転車です。

私が自転車に乗る時は、いつもお父さんがマラソンに出かける時で、走るお父さんの後ろについて行きます。コースはいろいろで、市内のいろんな所を走って行くので楽しいですが、一時間くらい走るので少し疲れます。なぜ、お父さんと一緒に走るのかというと、私が小学校の高学年になるまでは、決して一人では乗らないという約束をしたからです。

大人は車を運転するために自動車教習所に通いますが、自転車には自転車教習所がありません。小学校の

交通安全教室では、けいさつの人が来てくれて自転車の正しい乗り方や交通ルールを教えてくださいましたが、外の道路には車がたくさん走っていて、とても不安です。そのことをお父さんに言ったら、私が高学年になって上達するまで、一緒に走りながら教えてくれることになりました。

お父さんからは、自転車に乗るための心がまえとして、

- 一、必ずヘルメットと手袋をつけて、サングラスは絶対にはかないこと。
- 二、出発する時は、必ず後ろを見て、車が来ないのを確認してからペダルをこぐこと。
- 三、歩道のない道路は左はしを走り、友達どうしでおしゃべりをしながら、道路の真ん中をふらふら走らないこと。
- 四、おうだん歩道や交差点では、信号が青に変わってもすぐに渡らない。そして、車が来ないか確認して、注意をしながら渡ること。
- 五、一時停止のひょうしきのある所はもちろん、左右の見えないまがり角は必ず止まって、自分

の目で見えるまで確認すること。

など、いろいろ教えてくれました。

お父さんは心配性なのか、「もつと脇とひざをしめて!」、「そこでちゃんと止まりなさい!」そして、「右見て、左見て、もう一度右見て!」とか、走りながら大きな声で口うるさく注意してくるので、恥ずかしくて時々いやになることもあります。

そんな中、この夏休みに自転車でお母さんと図書館に行く途中、ヒヤリとしたことがありました。広いガソリンスタンドの奥から車がいきおいよく走ってきて、そのまま私達の目の前を通り過ぎて表の道路に入ってしまったのです。私はその時、お父さんの言っていたことを思い出しました。もし、その車に気づかずに進んでいたら、車にはねられていたかもしれないと思うと、今でもゾツとします。

私は、交通事故にあわないように、一所けん命に教えてくれるお父さんに感謝しています。私は早く上達して、お父さんの自転車教習所を卒業したら、今度は一緒に自転車で、遠くへサイクリングに出かけたいです。

石川県七尾市立和倉小学校

四年 でさき 出崎 あやな 絢菜

お地ぞうさんとわが家の交通安全

「このお地ぞうさん何であるがん?」

今年の夏、おばあちゃんの里におはか参りに行った時、いっしょにお参りしているお地ぞうさんのことを、わたしはあらためて聞いてみました。

「おばあちゃんのおばあちゃんが前の道路で車にひかれてなくなっているんだよ。」

なくなったおばあちゃんのため、そしてもう二度と悲しいことが起こらないように、とねがいをこめて家族が建てたということをおばあちゃんが教えてくれました。知らせを受けた時のびつくりしたこと、おばあちゃんが死んでしまつて、家族じゅうとつても悲しくて泣いたこと、おばあちゃんから話を聞いて、わたしは言葉が出ませんでした。

「でも、どうしてこんな広い大きい道路でひかれて

んろ。」

わたしはふしぎでなりませんでした。いなかの道路
だけど、新しくできた道でとっても見通しがいいので
す。わたしはじつと道路を見つめました。

「こんなにスピード出したら、止まれんわいね。
見とるだけであぶなつかしい。」

お母さんが言った言葉で、ビュンビュンスピードを
出して通りすぎていく何台もの車に、気が付きました。
もしかしたら、見通しがよくて広い道路だから、運転
している人も少しくらいスピードを出してもだいじょ
うぶ、と思っていたのかもしれない。ゆつくり歩いて
いるおばあちゃんに、気付くのがおくれたのかもしれ
ない。今まで見ていた見通しのよい道が、わたしは何
だかこわくなりました。

家に帰ってからわたしは、お父さんとお母さんに聞
きました。

「車に乗つとるとき、ルール守らんとスピード出す
ことってある？」

お母さんは、

「あわてとると、ついついアクセルふんでしまうか

もしれんね。」

と答えました。どうしたらスピードを出さずにルール
を守つて安全に運転できるのか、お母さんと話してい
ると、

「お父さんの会社では一・二・三運動をしとるよ。」
と、お父さんが教えてくれました。こうです。

- ・一わりのスピードダウンをする
- ・二倍の車間きよりをとる
- ・三分早めの出発をする

お母さんもわたしも、うんうん、とうなずきました。
わたしも、広くて見通しがいい道でも、しっかりかく
にんしてわたること、運転している人に気付いてもら
えるように、手をあげて、登校中もタスキを必ずわす
れずにするのをやくそくしました。

家族で話しあい、運転する人も歩行者もおたがいに
気を付けることが大事だと、お地ぞうさんに教えても
らった気がします。今度おじぞうさんに報こくに行き
たいと思っています。

登校班での交通安全

私は、学校へ行く時の、登校班について、考えたり、話し合ったりしました。

そこでは、毎日の通学路や横断歩道で、あぶない場所を調べたり、これからは低学年にどのような呼びかけをすれば良いかを考えました。

なぜ、このようなことを考えて、話し合ったかというと、今年、私が初めて班長になりました。班長を一月間やってみて、班長として、班の子や低学年の安全を守りながら登校するのは、とてもむずかしいし、大変だと感じました。そこで、もつと班の子や低学年の安全を守って登校したいと思ったからです。

私の班の通学路は、車が通る回数は少ないですが、道がとてもせまいです。だから、車が来た時は、とてもはしへよらないといけないのが、とても困りました。

だいたいみんなはすぐに自分から気付いてくれるけれど、たまに気付かない人もいますので、これからはもつとよびかけができるように心がけていきたいです。

もう一つあぶないと思った場所は、道が入り込んでいき止まりの場所です。この場所は、通学路の中に何カ所もあるのですが、車がとめてある場所もありました。いつ車が出てくるのか分からないので、気をつけて通るようにしたいと思います。

横断歩道は、班の通学路の中に一つしかありません。ですが、その横断歩道がある場所の道路は、とても大きな道路なので、わたる時は、後ろがつかまらないように、できるだけたくさんの方がわたれるように少し速く歩くようにしています。ですが、一年生の歩ける速さの中で、速く歩くようにしないといけないと感じました。

私はこのようなことを考えたり、話し合ったりしました。

その結果、たくさんあぶない場所が通学路の中にあることが分かりました。

これからは、低学年の子に、あぶない場所を知って

もらつて、班長としてもあぶない場所を通る時は、声をかけてあげるなどのことを少しずつ実行していきたいと思ひました。

これからは、もつと班の子や低学年の安全を守れるように良い班長になれるように努力していききたいと思ひました。

茨城県水戸市立三の丸小学校

六年

大峯 おおみね

健太郎 けんたろう

お年寄りの想ひ

「お年寄りは免許証を返納しましょう」

最近よく耳にする言葉です。そしてぼくはこの言葉を聞くと、昨年八十四歳で亡くなつた祖父のことを思ひ出します。

祖父はぼくの家の近くで一人暮らしをしていました。昔から足が悪かつたので、自分で車を運転して買

ひ物や病院へ行つていました。

ある日祖父はいつものように自分で車を運転して、五十キロ離れた親戚のお墓参りに行きました。その帰りに、運転を誤つて縁石に乗り上げてしまいました。ところが、その車を修理してもらつている間に借りた代車も、縁石に乗り上げてしまつたのです。たつた七日の間に二度も事故を起こしてしまつたのです。この事故は縁石で済んだのですが、もしも小学生の登校の列だつたらと考えると、ゾツとしました。

ぼくの父は祖父に運転免許証を返納するように言ひました。しかし祖父は、

「まだ大丈夫だ。」

と言つて聞く耳を持ちません。しかし父は、

「次は孫をひくことになるぞ。」

と言つて祖父を説得しました。祖父もしぶしぶ車のカギを父に渡しました。結局返納はしませんでした。車を運転することはやめました。今思うと、祖父の気持ちがかかるような気がします。

祖父は、父にカギを渡した後で、

「車を取り上げられた。」

といろいろな人に言っていました。きっと、父の父であるという祖父なりのプライドからそんな言い方をしていたのでしょうか。もしかしたら、年を取ったから運転ができなくなった、と周りから思われるのが恥ずかしかつたのかもしれない。

祖父が運転をやめると、父や母の生活も変わりました。父と母が祖父を買い物や病院へ連れて行くことになりました。祖父は父や母に世話になっているのになりがとうの言葉も言いませんでした。父や母は次第にストレスがたまっていきました。お年寄りが運転しなくなるということは家族の負担が増えるということなのです。免許を返納しようとひと言で言いますが、ぼくの祖父のように、簡単なことではないのです。

免許証を返納しやすい街、とはどのような街なのでしょう。ぼくなりに考えてみました。

まず、自動運転の車が普及していて、お年寄りが自分で運転する必要がない街です。

次に、お店に行かなくてもインターネットで買い物ができたり、病院に行かなくてもインターネットで診察が受けられる街です。

私たちの意識も大切です。事故を防ぐためにお年寄りから免許証を取り上げる、と考えてしまいますが、「運転卒業です。お疲れ様でした。」

と温かく免許証を返納していただくという、気持ちで接すれば、お年寄りも私たちもお互いに幸せな日々を送れるのではないのでしょうか。

優秀作

文部科学大臣賞

兵庫県加古川市立若宮小学校

二年

渡部 わたなべ

俊輝 としき

ぼくがまもっているこうつうルール

ぼくは、小学二年生七さいです。ぼくの体は小さい。せのじゅんは、いつも一番前だ。お母さんから言われていることは、大人の人といっしょにいない道ろでの歩き方は、ふざけず、車や自てん車をよく見て歩くことだった。お母さんといっしょでも、ぼくは話にむ中になつてお母さんより先にすすんでしまつて、よく手をひつぱられる。いたつ！と思うことがあるが、ぼくがケガをしないため。ぼくは、考えた。せのひくいぼくは、車やトラックからどうやったら大きく見えることが出きるかと。じつさいにやってみた。止まつて

いる車にお母さんにつてもらい、ぼくが前を歩いた。

「見える？」

と聞くと、

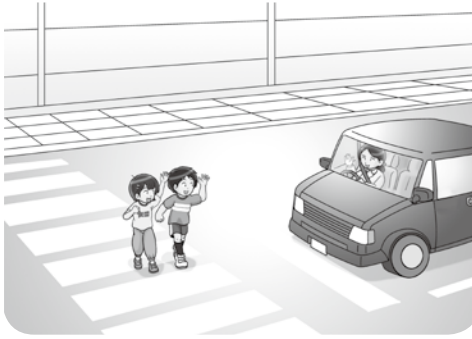
「ちよつとだけ。」

だつて。ぼくの家の車は小さい車なのに、ちよつとだけだつて。こまつた。ぼくは、すぐには大きくならない。ぼくは、ジャンプしながら手をあげてすすんでみた。

「それやったら、前にすすまないでしょ。」

とわらつて言った。それもそうだ。ジャンプをしてたら、おそくなつてよけいにひかれる。やつぱり手を上げて、さつきとわたることにした。ぼくも車にのつている人が、どう見えているのかお母さんが子どもになつてもらつて、ぼくがうんてんしゅになつてじつけんをしてみた。大きなお母さんがぜんぜん見えない。手を上げてもらつたら手だけ見えた。おどろきだ。うんてんせきからななめを見るとまつたく見えない。子どもがもしとびだすと、うんてんしゅさんもブレーキをふむのがおくれるにちがいない。こわいと思つた。もし、ぼくのこうどうで、じこにあつたら、きつとお母さんは、かなしむだろう。そうならないためにも、

ぼくはお母さんに、道をわたるときは、左右をかくにんして、大きく手を上げて、はやくわたることをや
くそくした。それから、かならずじつこうしている。



佳作

警察庁交通局長賞

埼玉県蓮田市立黒浜北小学校

一年

伊藤 いと

知洋 ともひろ

じぶんのいのちは、じぶんでまもる

ぼくのいえのとなりは、ゆうびんきよくだ。すぐち
かくには、しんごうのないおうだんほどうもある。

へいじつは、ゆうびんきよくにくるおきやくさんの
車がどうろにとまっている。

おかあさんは、ろ上ちゆう車をしている車を見ると
ためいきをつく。ぼくやおとうとが、そとに出るとき
にとてもあぶないからだ。

まえに、おかあさんとおとうとといっしょにおうだ
んほどうをわたろうとしたら、ぼくの目のまえをビュ
ンと車がおつていった。おかあさんが、ぼくとおと

うとのてをぎゅつとにぎつて、どうろをわたるのをやめた。ぼくのしんぞうは、ドキドキした。

ぼくは、おうだんほどうをわたるときにろ上ちゆうしやをしている車があると、はしつてくる車がよく見えない。ようちえんのころから、おかあさんといつしよに右左右をしてからわたっている。

小がくせいになつてせがのびたのに、やつぱりろ上ちゆう車があるとぼくには、よく見えない。

おかあさんも、大きな車があると見えないとおしえてくれた。

このまえ、おかあさんがすこしこわいかおをして、

「じぶんのいのちは、じぶんでまもるんだよ。」

といった。

ぼくは、さみしかった。

「どうして、そんなこというの。」

ときいてみた。

おかあさんは、

「二年せいになつて、とう下こうのときにいつもいっしょにいられないでしょ。だから、ひとりのときは、じぶんで車やまわりにきをつけてほしいから。」

といった。

ぼくのことを、しんぱいしてるのかなとおもつた。ランドセルをしょっているときは、おもくてあるくだけでたいへんだ。

でも、おかあさんとやくそくしたから、こうつうじこにきをつけてがんばつてあるこうとおもつた。

埼玉県さいたま市立大成小学校

一年

永幡

樹一

ちよつとゆつくりでもいいですか？

ぼくのおとうとは、くるまいすにのつています。まだ三さいなので、つかれてどうろのまんなかできゆうにとまつたり、おうだんほどうのあと、だんさにのぼれなくてこまることがあります。そんなとき、すぐちかくをくるまがスピードをだしてとおると、とてもこわいです。

それから、ぼくのいえのちかくを、しろいつえをもつたおじさんがとります。めがみえづらいのでしろいつえをたよりにあるいているんだよと、おかあさんがおしえてくれました。もしぼくだったら、そこをあるくのがとてもこわいなとおもいました。そのおじさんがおうだんほどうをわたるのをみていたら、まわりのくるまは、おじさんがわたりおわるまで、みんなとまってまっています。ぼくはそのとき、おじさんがわたりおわたつたのをみてあんしんしたし、くるまにのっている人たちが、とてもやさしいなとおもいました。ぼくも、みちでこまっている人をみかけたら、見まもつて、たすけてあげたいとおもいました。

おとなはいつもそがしそうです。くるまもいそいでみちをとっています。だけど、ぼくのおとうとや、しろいつえのおじさんのように、みちをゆつくりとおらなければならぬ人もいます。だから、しろいつえのおじさんを見まもつたくるまみたいにな、みんながやさしいひとたちだといとおもいます。そうすれば、だれでもあんしんしてそこをあるけるまちになるとおもいます。

いそいでいても、いろんな人たちがいるから、ちよつとゆつくりでもいいですか？

香川県高松市立仏生山小学校

一年 多田 奏誉

あわてない、あわてない、ひとやすみ

わたしは、あわてんぼうなのでおとうさんとおかあさんに、「あわてない、あわてない、ひとやすみ」とよくいわれます。どんなみかわからなかったのか、おとうさんにきくと、「いそいでいるときこそ、おちついてこうどうすることがたいせつで、このことばをおもつていれば、あんぜんにこうどうすることができよよ。」といっていました。

わたしは六さいのときに、じてんしゃにのつて、おかあさんとかいものへいくとちゆうで、くるまとぶつかりました。わたしは、ころびました。すぐにおきあ

がれませんでした。

おかあさんがわたしのなまえをよんでおこしてくれました。わたしは、こわくてなくて、ガタガタふるえていました。てとあしをすりむいてちがえました。とてもいたかったです。

おかあさんが、「だいじょうぶだからね。しんぱい
ないからね。」といつてだきしめてくれました。それから、びょういんへいきました。ほねはおれてませんでした。が、てくびをねんざして、うごかすとももいたかったです。しばらく、びょういんでリハビリをしました。いまはいたみもなくげんきになりました。じてんしゃにのるのもさいしょはこわかったけれど、のれるようになりました。

じてんしゃにのるときは、ヘルメットをかぶりうんどうぐつをはいて、どうろのひだりがわをはしります。スピードはだしません。

また、わたしのいえのまえはどうろで、くるまがたくとおっています。いえのものをでたらあわてないでまわりをよくみてあるきます。ぜったいにとびだしません。おうだんほどうをわたるときは、てをあげ

てわたります。これが、おとうさん、おかあさんとわたしのおやくそくです。

かみさまからあたえられたいのちをたいせつに、まいにちげんきにすごせていることをかんしゃして、きょうも、こうつうあんぜんルールをきちんとまもります。

「あわてない、あわてない、ひとやすみ」をこころにおもいながら、おとうさん、おかあさんの「いつてらっしゃい。きをつけて」のこえがきょうもきこえてきます。

埼玉県飯能市立加治小学校

二年

梶田 すぎた

雄星 ゆうせい

色いろなこうつうあん全

ぼくが、こうつうあん全で気をつけていることは、「おうだん歩どうでは、青の時に右・左・右を見て、手を

あげてわたる」ということと、どんなにいそいでいる時でも「ふみ切がなりだしたらとまる」ということです。

みんなはどんなこうつうあん全に気をつけているのか、聞いてみました。おとうさんは「車のスピードだね。スピードを出しすぎると車はすぐにとまれないから、どこにあつちやうもん。だからおとうさんは高そくどうろでも、ゆうせいに、もつとスピード出して、つて言われても出してないでしょ？ かぞくみんなのいのちがのつてるからね」と教えてくれて、おとうさんが、いつもスピードを出さなかつたみたいがわかりました。

つぎに、おかあさんにも聞いてみました。おかあさんは「車をうんでんしてる時に自てん車の人がライトをつけてくれていないと見にくいし、音がくを聞きながら自てん車をこいでいる人がいると、車に気づいてる？ とつぜんこつちにこないでね。」とドキドキするそうです。だから自分が自てん車にのる時にはライトをつけて、きちんと左がわをはしる、ということに気をつけているそうです。

この前、かぞくで自てん車たんけんに行った時に、

ぼくは、後ろをはしつていたおかあさんに、何回も「もつと左！」と言われました。自てん車は左をはしるということは、ついついわすれてしまうので、こんどの時はおかあさんに、ちゆういされないように、きちんと左をはしろう、と思いました。

おねえちゃん「下校の時に、どうしてもおともだちと話をしちやつて二れつになつちやうんだよなあ。一れつに歩かなきゃと思つてるんだけど。一れつで歩くのは下校はんでかえる一年生が一ばん上手な気がする。」と一れつになつて歩くということに気をつけているそうです。一れつになつて歩くこともこうつうあん全の一つなんだ！ 自分も気をつけよう！ と思いました。

みんなに、こうつうあん全で気をつけていることを聞いて、みんなが自分と同じことを言うだろうと思つていたけれど、一人ずつちがうこたえを言っていて、とてもべんきようになりました。こんどは、おじいちゃんやおばあちゃんにも聞いて色いろなこうつうあん全に気をつけます。

しつかりまもろうこうつうルール

一年生のあき、ならいごとへ行っているときのことです。いえの近くのしんごうきのないおうだん歩どうをわたっているとき、ほつぺとひぎになにかがぶつかりました。ぶつかったときは一体なにかおこったのかわかりませんでした。前を見るとバスがとまっています。そのときぼくはバスにぶつかったということに気づいてこわくなりました。にげないと思つてはしろうとしたら、バスのうんでん手さんがバスからおりてきてぼくのことをよびとめました。ぼくはふあんになりながらけいさつの人とおかあさんがくるのをまつて、みんなでじこがあつたおうだん歩どうをみてから、おかあさんといっしょにびょういんへ行きました。いえにかえると、おばあちゃんがしんぱいそうにぼくのことをまつていました。

「大きなけがをしなくてよかつた。もしバスのタイヤにひかれていたら大けがをしていたよ。どうしてバスとぶつかつたのか、どうしたらこれからじこにあわないかよく考えてごらん。」

ぼくはバスとぶつかつたときのことを思い出してみました。ぼくがわたつていたおうだん歩どうはしんごうきがなくて、夕がたは車がたくさんはしつています。おうだん歩どうの近くにはぎん行やコンビニがあるので、とめてはいけないばしょにたくさん車がとめてあります。おうだん歩どうをわたろうと思つて右左をよく見ても車がきているかどうかかわからないときもあります。車がきていないと思つておうだん歩どうをわたつていても、見えていないだけでゆつくりと車がきていることもあります。ぼくはそのことにきがつかずにバスとぶつかつてしまいました。

これからじこにあわないようにするには、いままでいじょうに右左をかくにんすること、とおまわりになつてもしんごうきのあるおうだん歩どうをわたるこ

とが大切だと思ひました。これからもこうつうルール

をしつかりとまもりたいです。

香川県さぬき市立長尾小学校

二年 平木 ひらき
太一 たいち

じぶんでまもうルールといのち

三年前、おにいちちゃんが交通じこにあいました。その日の朝、家に何回もでん話がかかってきたけど、お母さんはせんたくをしていて気がついていませんでした。ぼくが、

「何回もでん話になつとるよ。」

とおしえてあげると、いそいででん話に出て、

「おにいちちゃんが交通じこにあつた。すぐに行くよ。」とあわてて車にのせられました。ぼくは、車の中で、

「おにいちちゃん、しんでしまうん？」

と何回も聞いたことをおぼえています。とてもこわかったです。おにいちちゃんは足のけがだけですぐ家に

帰つてくれたけど、その時ぼくは気をつけようと思いましたが。

今は小学生になつてしゅうだんとう校をしています。お母さんによく聞かれることがあります。

「まい日きちんとルールをまもつてる？」

ぼくは、しばらく考えて、

「ううん、まもれてないかも。」

と言いました。

「きゆうに道をわたる。」

「車がきても止まらない。」

「みんながバラバラであるく。」

「右、左を見ないであるく。」

少し考えただけで、ダメなところがたくさんありました。たくさんできていなくてビックリしたし、お母さんには、

「これでは、いつじこにあつてもおかしくないな。」といわれました。

それから、どうしてまもれていないのかをいつしよに考えました。すると、「車が止まってくれるかな」とか「友だちがいつしよだから大じょうぶかな」とい

う気もちがあることに気づきました。

そして、あのときの「こわい」という思いもわすれていました。

「これ、見て。」

とお母さんが見せてくれたのは、おにいちゃんがじこにあった時のくつとくつ下でした。くつ下はビリビリにやぶけていて、くつもちぎれていました。

「やつぱり、こわい。じこにあいたくない。」
と思いました。

だから、ぼくは、

「きゆうにはしらない、とびださない、おうだんほ道でふぎけない、しんごうをまもる」あたり前のこと
だけど、じぶんで気をつけます。

まい日元気よく「行つてきます。」や「ただいま。」
を言いたいです。

栃木県那須塩原市立高林小学校

三年

室井 むらい

まお

交通ルールを守つてくれてありがとう

「あぶないよ。」

わたしは、大好きなさん步中、いつもひやひやしな
がら妹を注意します。歩道がせまくて車がわたしたち
のすぐそばを走つていくからです。また、道路をわた
るときには、

「右を見て、左を見て、もう一度右を見て。」

と元気よくかくにんするようにしています。それは、
わたしの家の周りには信号きがないからです。信号き
がなくても、安全に道路をわたれるように、小さなこ
ろから父や母に教えられました。妹も、わたしの
まねをして、手をしっかりあげて道路をわたつていま
す。妹は、道路を走る車を見るだけでも手をあげるこ
とがあり、かわいらしいです。近所のおばあさんには、
「えらいね。」

とほめられて、とてもいい気分になります。

歩道がせまかったり信号きがなかったりときけんがいくつもあるわたしの家のまわりですが、今まで交通事こが起こるのを、見たことはありません。

しかし、テレビを見ていると、とう校中の小学生のれつに車がとびこんで、小学生がいのちを落としてしまったというニュースを耳にすることがあります。きちんとルールを守って歩いているのに事こにあつてしまふのはなぜなのでしょう。とてもかわいそうで、かなしい気もちになります。車は、とてもべんりなものです。きけんなものでもあると思います。ほんの少しゆんのうちにいのちをうばつてしまうからです。車さえなければ交通事こは起こらないのであれば、車がなくねばいいと思つたこともあります。でも、車がないと生活ができなくなつてしまう人もいます。わたしの住む地いきでも車は必要です。近くのスーパーに買い物に行くにも、車で十五分はかかります。車は、わたしたちの足のようなものです。

では、どうすれば交通事こは起こらないのでしょうか。それは、歩行者も車のうんてん手も一人一人が

交通ルールを守ることだと思ひます。わたしの住んでいるところで事こが起こらないのも、きつとみんながルールを守っているからでしょう。そう考えると、とてもうれしくなります。わたしたちがさん歩するこの道を安全運転してくれる人たちに感しやしたいです。もし、歩行者、車の運転手それぞれが、おたがいに「交通ルールを守つてくれてありがとう」という感しやの気もちをもち、ルールを守つたら……。交通事こも少なくなり、安心して生活できるようになると思ひます。そうなるためにも、わたしは、交通ルールを守つてくれる運転手さんに感しやしながら、これからも交通ルールを守つて妹と一しよにさん歩を楽しみたいです。

「どうぞ」の気持ち

「あつ！ 赤しん号なのに。」

赤しん号の横だん歩道をわたる大人を見かけて、わたしは、ずるい！ あぶない！ と思いました。子どもには、赤しん号で横だん歩道をわたつてはいけません、と言っているのに、どうして大人が平気でわたるのだろうか、ふしぎな気持ちになりました。

わたしのお父さんは、お仕事がいそがしくて、毎日朝早く家を出て、夜おそく帰ってきます。お父さんが帰って来ると、わたしとお母さんは、無事でよかったです、と、ホッとします。お父さんはいつもわたしに、

「車に気をつけてね。交通ルールをきちんと守つていても、とつぜん車やオートバイがとび出してくることもあるからね。」

と言います。もしかすると、赤しん号の横だん歩道をわたつた人も、いそがしくて、急いでいたのかもしれない。でも、だからと言って、赤しん号の横だん歩道をわたつていいわけではありません。テレビで交通事このニュースを見ると、こわくなります。わたしも、学校の帰り道、青しん号で横だん歩道をわたろうとした時に、とつぜん車がとび出してきて、事にあいそうになつた事があります。とてもびっくりしました。

わたしは、こういう事がなくなるにはどうしたらいいか考えました。考えてみると、そういう悪い大人とはちがう人もいました。わたしが道路をわたろうとした時に、車が来たので待とうと思つていたら、運転している人が、手で、やさしい感じで「どうぞ」としてくれました。わたしは安心して先にわたりました。そして、車の前を通つた時に、おじぎをしました。

人にはいろいろな人がいます。けがや病気でゆつくり歩く人、お年よりでつえをついている人、おなかに赤ちゃんがいる人。そして、目の不自由な人は車が見えません。耳の不自由な人は車のクラクションが聞こえません。みんながみんな、元気だというわけではあ

りません。だれもが安心して、安全に横たん歩道をおたるには、どうしたらいいのでしょうか。

大切なのは、みんなが交通ルールを守る事。どんなに急いでいても、大人も子どももルールを守らなければなりません。そして、わたしが気づいた事は、いろいろな人の立場になって考えてみる事です。そうすれば、相手の気持ちがよく分かるようになるからです。

「どうぞ」と道をゆずられてわたしがうれしかったように、わたしもだれかに「どうぞ」の気持ちあげたいです。こまっっている人がいたら、助けたいです。そしてわたしだけでなく、世の中の人みんなが交通ルールを守り、「どうぞ」の気持ちを持っていたら、もしかすると世の中から交通事故がなくなるかもしれません。それがわたしのねがいです。

「交通安全」はまほうの言葉

わたしのおじいちゃんは、むかしけいさつかんでした。交通かというところで長い間仕事をしていたので、道路のきまりや交通安全についてたくさんを教えてください。だから、わたしにとつて「交通安全」という言葉は、少しきんちようするとかくべつな言葉でもあります。

いつもはやさしいおじいちゃんですが、お出かけのときには、こわい顔になることがあります。

「車が急に動くかもしれんから、ふざけたらあかんぞ。」

と、いつも声をかけてきます。家の近くの道をいつしよにさん歩いてても、

「とび出しは、しられんよ。」

と、車がいなくても大きき声できけんできます。わたしは、おじいちゃんに声をかけられなくても、いつも気をつけているつもりなので、正直ちょっとめんどくさいなあと思うこともあります。でも、おじいちゃんは今までにたくさんの事を見てきたから、心ばいしてくれているのだと思います。

そんなおじいちゃんが、運転するときに気をつけていること、それは「きけん予知」をすることだそうです。きけん予知とは、「○○かもしれない」と考えることです。「子どもがとび出すかもしれない」「お年よりがおうだんするかもしれない」とそうぞうしながら、いつも運転しているそうです。わたしはどんな気もちで運転をしているかなんて考えたこともなかったのですが、きけんを予知しながら運転をするなんてすごいなあと思います。そして、きけんを予知しないから事を起こすのだとも、教えてくれました。車を運転する人は、「○○だろう」とゆだんして運転するのではなく、「○○かもしれない」と注意してほしいと思いました。そうすることで、事こでいやな思いをする人を少しでもへらせるはずです。

わたしもおじいちゃんを見習って、小学校のとう下校で気をつけていることがあります。それは、信号が青でもしつかり右左を見ることです。「青だけど、車は止まらないかもしれない」「青だけど、車が曲がってくるかもしれない」と考えて、毎日横だん歩道をわたるようにしています。これは、歩いている人の「きけん予知」だと思っています。

「交通安全」や「きけん予知」は、車を運転する人だけの言葉ではないと思います。歩いている人、自転車にのっている人、バイクにのっている人、みんなの言葉です。そのことを考えていけば、交通事こでかなしい思いをする人はいなくなつて、みんながにこのえ顔になれると思います。そう考えると、「交通安全」は、みんなをえ顔にするま法の言葉なのかもしれないせん。わたしは、これからもこのま法の言葉を大切にしたいです。

四年

金子 かねこ

莉菜 りな

とつぜんの出来事

「おばちゃん、どうしたの。」

そろばんじゅくのおむかえにいつもおばちゃんが来てくれるのに、なぜかおじちゃんだったので具合でも悪くなってしまったのではないかと、どきどきしながら聞いた。

「おばちゃんは、そろばんじゅくに送っていった帰り、スーパールのちゅう車場で車をぶつけられちゃったんだよ。」

とおじちゃんは教えてくれた。

「おばちゃん、大じょうぶなの。」

私は心配になり聞いた。心ぞうがどきどきしているのが分かった。

「おばちゃんの体は大じょうぶだよ。」

おじちゃんがそう言ったのを聞いて、私は少しほつとした。

しばらくして帰って来たおばちゃんは、とてもつかれた顔をしていた。相手の人は軽トラに乗った八十四才のおじいさんで、おばちゃんがちゅう車場に車を止め終わった時いきおいよくバックしてきて、おばちゃんの車にぶつけてしまった。おばちゃんは車からすぐに下りたが、そのおじいさんはぶつかったことも分かっているのかそのまま帰ってしまいそうだったと言う。ただ、そのおじいさんも体にはががなかったと聞いて安心した。

私はお父さんに、

「車は何才まで乗れるの。」

と聞くと、

「運転めんきょしよを取とくしたら、何才まででも運転できることになっているんだよ。」

と教えてくれた。私は知らなかったのでびっくりした。高れいになると、注意力や反応力にもぶくなり事も増えるから、運転めんきょしよの返のうせい度があることも教えてくれた。また運転めんきょしよをこ

う新する時、こう新できない人もいるという。でも今

は高い者だけで生活している家庭も増えているから、車はかかせない動手段ということも知った。そしてこれからもっともつと高い者が増えるという。

私は今回のおぼちゃんの車の事で、いろいろな事を感じた。平日はお父さんとお母さんはお仕事に行っているの、習い事の送りむかえはおぼちゃんとおじちゃんにおねがいしている。私が大人になったら、今助けてもらっている分、おぼちゃんとおじちゃんが車に乗らなくてもすむように助けてあげたい。そして私がお大人になるころには、お年よりが自分で車を運転しなくても生活できることが当たり前の世の中になってほしいと思う。事は一歩まちがえば命までなくなってしまうこともある。お年よりが運転する車が建物につつこんでしまったというニュースをテレビで見たこともある。

近いしように来、お年よりにやさしい社会になればいいなと思う。そんな社会を作っていくのは、私たちなのかもしれない。

栃木県佐野市立吉水小学校

四年 吉原よしはら 馴人しゅんと

言葉のお守り

ぼくは、今年の春から通学班の班長になりました。去年までは六年生の上級生が班長で、ぼくはその班の一番後ろを歩く副班長でした。通学路はせまい道なので、後ろからスピードを出して来る車などを班のみんなに知らせていました。

今までたよりにしていた上級生が卒業して、新しい黄色の班長旗を持ち、先頭になって毎日登校します。初めてみんなの前を歩く時は、なんだか、はずかしい気持ちとうれしい気持ち半分です。そして一番は、みんなを安全に登校させる責任を感じました。

ぼくの班には、春から一年生が入学してきました。新入生一人、二年生が二人、そして三年生の副班長とぼくの合計五人です。登校の時に気をつけている事は、まず歩く速度です。特に一年生は、体が小さいので歩

くスピードに注意します。そして次に、一列に並んで道路のはしをきちんと歩く事。道を横だんする時は、班のみんなが安全に渡れるように左右をよく見て、車に注意しながら渡ります。だから、ぼくは後ろの様子をかくにんするために、よく後ろをふり返って声をかけます。

ぼくが一年生の時、毎朝集合場所までお母さんがいつしよについて見送りをしてくれ、下校の時間になると、途中まで歩いてむかえに来てくれました。いつしよに歩きながら自動車が来ると、大きな声で、

「後ろから、車がきたから気をつけて。」

「道のはしを歩いてね。」

と言い、道を渡る時も、

「左右、よく見て渡つてね。」

と列のみんなに聞こえるように言います。そして、むかえに来て他のお母さんやおばあちゃん、おじいちゃん達も列からおくれぎみの子や、はみだして歩いている子に、やさしく声をかけ、注意してくれました。

ぼくが二年生へ進級すると、毎朝お母さんは家の玄関で、

「車に気をつけてね。いつてらっしゃい。」

と言つて、今度はぼくが見えなくなるまで窓から見送つてくれます。学年がどんどん進級しても、毎日同じく言われると、わかっているのにうるさいなあと思うこともあります。だからお母さんに、

「もう、いつもわかっているよ。」

と不機げんそうに言うのと、

「だつて、毎日事故にあわないための言葉のお守りだから。」

と笑つて答えます。そんなふうに言われるとなんとなく、うれしくなりました。

ぼくは、小さなころから両親やまわりの人から守ってもらい、そして今までたくさんの人から言葉のお守りももらっていたんだと思いました。だからこれからは、ぼくから班のみんなに言葉のお守りと思つてもらえるよう、事故に気をつけて安全に登校したいです。

貴重なががみ

ある日、お母さんが車で家を出て、右にまがろうとした時に、

「おっ！ かがみがあつてよかつた。」とブレーキをかけました。その後すぐにバイクが行きました。

「え？ どこにかがみがあるの？」と聞いてみると、「あそこだよ。」とオレンジ色の丸いかがみを指さしました。道路にかがみ？ 見た事はあるけれど、特に気にしていなかつたので、

「どういう時に使うかがみなの？」と聞いてみると、「あれは、カーブミラーというもので、見通しが悪い所にあるから、今から買い物に行く所までに何こあるか数えてみたら？」と言われ、数えてみると、車でやく十分の所までに三十八ヶ所ありました。

初めて知って、うれしかったので、お父さんに、ほうこくしてみると、お父さんは、

「あー！ かがみはべんりだけど、最後は、自分の目でかくにんするんだよ。」と、教えてくれました。

私は、その日からオレンジ色のかがみが気になって、通学路で、登校する時に数えてみたり、おでかけをする時には、数えるのが習かんになっていました。

毎日数えていると、丸いかがみと四角いかがみがあつて、「どんな意味があるのかな？」と思つて、調べてみると、丸型は「全体を見わたしやすい」、四角型は「角の部分の、細かい所まで見える」という事でした。

道路のすみに、ポツンと立っているカーブミラー。気にしないで、かがみのある意味も分からない。という私にとつては、とてもかげのうすいそんざいでした。だけど、このかがみの一つ一つが、たくさんの人をうつしてくれて、交通事故をふせいでくれているという事を知つてからは、私の中では、人の役に立っている、とてもきちょうなそんざいにかかりました。

他にも、車には、サイドミラーや、バックミラーが

ついで、このかがみたちも、色々、大切なやくわりをはたしてくれています。交通安全に気をつけるのは、一人一人、という中に、かがみもたくさんきょう力してくれているという事が、分かりました。

宮城県大崎市立古川第一小学校

五年 穴戸 祐太

ぼくが事故にあつて気付かされたこと

これは、ぼくが四年生の時にあつた事故のお話です。それは、まだ気温が二十度をこえている日々に起きました。その日は同じ地区にいる友達と一緒にゲームをする約束をしていました。友達の家に行くには、交差点を通らないといけないので車がたくさんならぶ交差点で、ぼくはすぐ右側に止まっている大きなトラックより少し前で止まっていました。信号が変わつて軽く左右を見て、横断歩道をわたろうとすると、右側に止まっていたトラッ

クが左折して、ぼくの道をふさぐ様に前に出ました。次のしゅん間、その出来事はしゅんでした。トラックの前輪に自転車のタイヤがまき込まれました。この時、ぼくは心の中で、

(あつ…まづい…)

と思ひました。この時は少し時間がおそく感じられました。自転車のハンドルを持つていたぼくは、自転車と一緒にトラックに引っぱられてしまいました。

ぼくはその後、近くの病院に運ばれ、右のふとももに打ぼく、全身のいたるところにすりきずを負いました。原因はトラックの運転士さんが周囲をよく確認していなかったことのようにですが、ぼくはこの事をふり返つて自分にも少し責任を感じています。理由は二つあります。一つ目は自分も周囲をよく見ていなかったからです。

あの時、事故が起きることはないと思ひこんでしまい、周囲を確認できていませんでした。

二つ目は、親にも心配をかけてしまったからです。この事には、親が一番ぼくにやさしくしてくれました。そしてぼくは今、この作文を書いて気付いたことがあります。それは、交通安全の大切さです。それに一番大切だ

と思つたのは相手に全てをおしつけないで自分がした行動を先に考えることです。これからはこの氣付いたことを生かして私生活で楽しくすごしたいです。

茨城県古河市立中央小学校

五年

江原^{えはら}

悠真^{ゆうま}

命を大切に

「ドン、ガシャン。」

自転車で出かけようとしていた時、もうすぐ三才になるぼくは、自転車のチャイルドシートに乗ったままたおれてしまい気を失なってしまうという事故にあつてしまった。母は、すぐにぼくをだき上げて名前をよび続けてくれたそうだ。顔色はどんどん白くなり、なんの反応もしないぼくを見て、

「このままだと死んじゃう。」

と不安になつてふるえながら救急車をよんで病院に

行つたそうだ。救急車の中でようやく声を出して泣くぼくを見て、救急たいの人に、
「もうだいじょうぶですよ。」

と声をかけてもらいやつと安心できたという話をしてくれた。

五年生になつたぼくに母は、

「ヘルメットは、ぜつたいにかぶつてよ。」

と必ず言ってくる。小さい時の事故でヘルメットをかぶらず自転車に乗せてこうかいしていたという話を何度も聞いていたのでぼくは、

「あたり前じゃん。かぶるよ。」

と答える。

ヘルメットをかぶつて自転車で出かけると、

「ださくない？」

「めんどくさくねえ。」

と言われてしまうことがある。でも、ぼくは、

「そう思うかもしれないけど、ぜつたいかぶつた方がいいよ。」

と言う。ヘルメットに対して良いイメージをもっていないから、友達はそんな風に思つてしまうのかもしれない。

ない。でも、ヘルメットは、ちつぽけな道具だと思っ
てしまうかもしれないけれど、命をつなぐ大切な道具
だとぼくは思っている。だからぼくは、ヘルメットの
大切さをみんなに知ってもらいたいし、

「かぶった方が自分を守ることができるんだよ。」
と伝えて行きたい。

夏休み中には、何度も交通安全について考えさせら
れるニュースを見た。

あおり運転をする自動車が、トラブルや事故をおこ
すというもの。自転車に乗っていた大学生が、スマー
トフォンに気を取られて、前を歩いていたおばあさん
に気がつかずにぶつかってしまい死なせてしまったと
いうニュース。ぼくはどうしてそんな事故がおきるよ
うな行動をしてしまうのかまったく意味が分からな
かった。交通安全のルールをきちんと守っていれば、
こんな大きな事故がおきるわけがないと思っただか
らだ。

だからぼくは、自分の命、みんなの命を守るために、
色々な人達から教えてもらった交通ルールをしつかり
守って生活していきたい。

岡山県倉敷市立葦高小学校

五年

赤尾 あかお

萌奈美 もなみ

私達の交通安全について

最近ニュースで、交通事故について、よく見ます。そ
のニュースを見るたびに社会科見学でけい察しよへ行つ
た時に、岡山県は交通事故が特に多いと言っていたこ
とを思い出します。ニュースでは車の事故がとも多い
けれど、今回は私にとって身近な自転車のことについて、
どうやったら交通事故が少なくなるか、どうやったら
けがが減るかを家族と一緒に考えてみました。

たくさん話し合った結果、四つの案ができました。
一つ目は、車やバイクには、バックミラーがついて
いるのに、自転車には、なぜついていないのだろうと
思っていました。後ろの様子が分かったほうが安全な
ので、自転車にもバックミラーをつけた方が良いと思
います。しかし、私一人だけつけるのは、「恥ずかしい」
ので、きそくでみんながつけなければならぬように

なつたら良いと思います。

二つ目は、自転車でも転んだら大けがをすることもあるので、自転車用エアバッグがあつたら良いのではないかと考えました。もしかしてと思い調べてみたら、なんと首にまく自転車用エアバッグがありました。それはしょうげきでヘルメット型に広がる物でした。それなら、「ヘルメットをかぶつたらいいのでは」と思いました。

三つ目は、自転車用めんきょしようを作ることです。例えば、ヘルメットをかぶっていないかつたらマイナス一点、夜にライトをつけていなかったらマイナス二点などというふうにします。私なら、ずっと満点がいいので安全に意識してがんばります。

四つ目は、町中で片手運転をしている人がとても多いので、タイヤが回っている間、片手運転になつていたら、「ピッピー」と鳴るものをつけるということですが、けれどもこれは、毎回片手運転をしている人は、「うるさい」と思いスイッチを切つてしまうと思います。それでは意味がないので、私は三つ目の自転車用めんきょしようが一番効果的だと思います。

今回、家族と一緒に交通安全について考えた時間が私にとつて一番自分のためになつた時間だつたと思います。

ですが、こういうそう備などをいくつもつけたとしても交通事故はおこります。そのほとんどが人の不注意から始まっています。なのでまずは、「交通事故をおこさないぞ」と強く意識をすることが大切だと改めて思いました。

宮城県仙台市立寺岡小学校

六年 秋保 あきほ 泰葉 やすは

横断歩道、青信号でも油断するな

「きつとやりたい事が沢山あつただろうな。心残りだろうな。」私は横断歩道の手前に添えられている、きれいな花束に手を合わせた。小学校のたてわりの授

業で優しくしてくれた、あの時のお兄さんの笑顔が目にかび涙がツーツと流れた。

「お兄さんは悪くない。だって歩行者の信号は青だったんだから。」そういくら思ってもお兄さんは戻ってこない。お兄さんは、塾の帰り道、スマホ運転していた車に横断歩道ではねられてしまった。悲しすぎるけれどどんなに悪くなくても、死んだら戻ってこれないんだ。

私は心の中でお兄さんに誓った。お兄さんの事を忘れない事。そしてお兄さんの死を無駄にはしない事を。

私は、家族とどうしたら良いか話し合った。まず最も重要なのは「歩行者の信号が青でも車が進入してくるかもしれない。車が必ず止まるとは限らない。」そういう意識を一人一人が持つことが大切だと、今回の事故から学んだ。確かに青は進めと、幼い頃から学んできたけれど、思い返してみると、正確には「注意して進め。」だったような気がする。今回の様なながら運転や、いぬむり運転、酒酔い運転している人もいるかもしれない。そんな車が自分に向かってきた時、自分で気づき逃げなければいけない。自分の身を守る

のは、自分なんだ。だから、いつ、どんな時も注意して道を渡らないといけないと思う。

そして、もう一つ大事だと考えたのは、自分の存在を運転手にアピールする事だ。特に暗くなると歩行者は気づかれにくく、私も助手席に乗っていて、何度か「ドキッ」とした事がある。それ位見えない。その点自転車は、反射板がついている為、遠くからも存在がわかる。私は、ジャンパーやかばんに反射テープを貼ってもらった。しかし、日によつて違う物を使う事も多いので、最終的には何足かの靴に反射テープを貼ってもらい、いつでも反射テープを身につける様にしたい。実際には、かかとの部分の短いテープだけれど、外観にも影響がなく、自分でも安心できて気に入っている。そして、送迎の運転が多い母は、運転する時はスマホの入った鞆を後部座席に置く事にした。モード切り換えだと忘れるし、助手席で音が鳴ると気になるらしい。それから、テレビの番組で夜はハイビームだと歩行者に気づくのが格段に早くなる、と知ってから細めにハイビームを使用する様になった。

私は、これからも通学路でもある、花の横断歩道を

渡り続けるだろう。毎日、心の中でお兄さんに手を合
わせ、誓いを胸に刻み続けたい。そして、悲しい事故
が二度とおきない様に、お兄さんからのメッセージで
あろう、

「横断歩道、青信号でも油断するな。」
を周りの人達に伝えていきたいと思う。

茨城県守谷市立守谷小学校

六年

松井 まつい

智伸 ともぶ

おじいちゃん、僕が遊びに行くよ

父が単身赴任をしていた時、祖父は僕にさびしい思
いをさせまいという思いから、月に一、二回程度高速
道路を使い、遊びに来てくれました。祖父はイン
ターを降りた後、近くのコンビニエンスストアに寄っ
て、公衆電話から、

「着いたよ、お願い。」

と、連絡してきました。そこで飲み物や弁当を三人分
買って祖父は待つていました。インターから僕の家ま
での道がよく分からないと言っていたので、僕と母は
車でそのコンビニエンスストアの駐車場に向かい、祖
父の車を先導しました。後ろを見ると、祖父がニコニ
コして手をふっている姿が見えました。ところがある
日、祖父が車をぶつけて壊してしまつたという話を聞
きました。幸いけがはありませんでしたが、愛車は廃
車にせざるを得ない状況になつてしまい、毎月遊びに
来ていた祖父はその時からやつて来なくなりました。
四年前の事です。

超高齢化社会である日本で、高齢ドライバーによる
事故のニュースをたくさん耳にします。これらの対策
として、例えば七十歳以上の人は運転免許証を更新で
きないようにする、運転免許証返納を義務化するなど
色々な考え方があると思います。しかし、この運転免
許証返納というのは、車の運転を継続したい人にとつ
ては言葉では言い表せないほどのかつとうがあるそう
です。まず、足代わりの車がなくなつてしまうことで、

生活に不便が生じるかもしれません。そしてそれ以上に、運転免許証を返納するということは、そう失感でいっぱいになり生活していく中で、自信や喜びや楽しみといった気持ちもなくなってしまいうさうです。母や伯父が、祖父に運転免許証返納の話をする時、「お父さんから免許を取ったら、何が残るんだ。」

と言つて、目を真つ赤にしたという話を聞いた時、元気がだったころの祖父が笑顔で車のハンドルを握つていた時の事がよみがえつてきました。

人は皆老いていきます。できていたことができなくなってしまうことも多いかもしれません。運転免許証自主返納に対する、公共交通機関利用の優ぐう制度などがあることをニュースで知りました。僕はそれと同時に人を孤独にせず、コミュニケーションをとりやすい明るい社会を目指すことが交通安全を守る、ひいては命を守ることにつながるのではないか、と思います。

今週末、祖父に会いに行きます。

運転手の目を見よう

ぼくは、最近自転車に乗る機会が多くなっています。そこで、二つ気をつけていることがあります。

一つ目は、角から曲がって来る車の運転手の目を見ることがあります。家族の中で絶対そうしようと思つたことがありません。それは、ぼくが一年生の時に、母が一人で車に乗って走っていると、左の道から出てこようとしている車としようと思つてしまったことです。その時母は、運転手の顔は見ておらず、車だけを見ていたそうです。その後、父が母に、

「相手の車を見るのではなく、運転手の目を見た方がいいよ。」

と言いました。相手がこちらに気づいていないと分かっていたら、速度を落としたり、クラクションを鳴らしたりして、事故を防ぐことができていたかもしれ

ません。それ以来母は、運転手の目を見るようになり、ぼくもそのことを教わりました。

ぼくは主に、習い事の行き帰りの時に自転車を使うので、少し危ないなと思う車があると必ず運転手を見て、運転手がこちらを見ていたら進み、他の方を見ていたら念のため停まるようにしています。

また、横断歩道を渡る時、青信号で渡っていても車にひかれてしまったというニュースを見たことがあるので、青だからといって安心するのではなく、その時も必ず運転手の目を見るようにしています。でも、昼間光が反射する時や夜暗い時は、相手の顔がよく見えないこともあると思います。そういう時は、より注意深く確認することが必要です。相手にも自分の存在を分かっもらうために、特に暗い夜は、明るい服を着たり、反射板をつけたりすることが大事だと思います。

二つ目は、かくれている物を予測するという事です。停まっている車をよける時など、何も考えずによけるのではなく、もし何か飛び出してきたらと予測するように心がけています。自転車と歩行者がぶつかり、歩行者にけがをさせてしまったという話もよく聞

きます。実際にぼくも、急に歩行者が路地から曲がってきて、ドキドキしたことがあります。細い路地で止まれの標識が無い所でも、速度を落としたり、止まったりすることは大事です。

来年は中学生になり、毎日自転車で通学する予定です。事故にあわないように注意し、自分の命は自分でしっかり守るようにしたいです。そして、これらの事を弟にも教えてあげて、事故のないようにしてあげたいです。